

公共施設の使用料の見直しについて

◆利用者負担の適正化に向けての個別検討事項

1 算出根拠（施設建設費、人件費、維持管理経費）について

- ・福祉会館の使用料原価（令和 5 年度に改正）
 - 施設建設費
 - 年間維持管理コスト（人件費、保守点検委託料、修繕料など）

※なぜ施設建設費を原価算入するのか

町民	利用者
税金で建設費を負担 ※施設を使用しなくても負担 （＝町民すべての財産）	利用した分を負担 ※利用者は町民に限られない

- ★施設建設費を原価算入することで、利用者が利用した分だけの建設費を負担
 - ★建設時の町民と、将来世代の利用者との公平な負担
 - ★財政の持続可能性の担保（次期建替・改修のための費用を平準化して担保）
- ⇒使用料の算出原価には、施設建設費、人件費、維持管理経費を含める。

2 冷暖房使用料等に関する利用者負担について

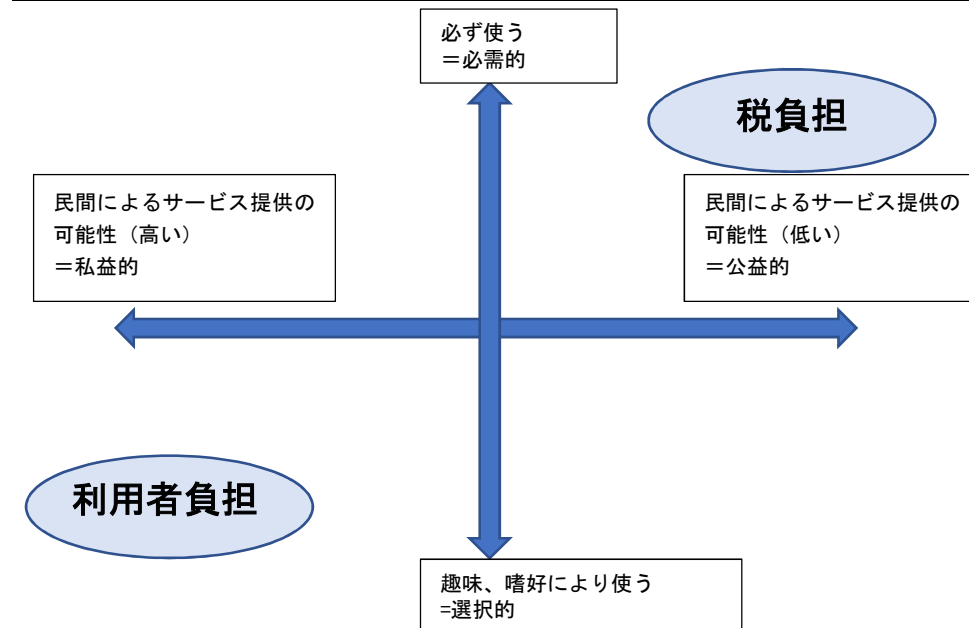
- ・気温の上昇に伴う健康リスク
（神奈川県の高気温 平成 26 年：36.1℃／令和 6 年度：37.9℃）
 - ・常駐管理人の不在、スマートロックなどの導入を踏まえた運営効率化
 - ★冷暖房使用料の施設による取扱いの統一化
（町民体育館、防災コミュニティセンターと福祉会館とで取扱いが異なる）
⇒本町ではDX推進計画において、公共施設予約のオンライン化、キャッシュレス決済の拡充を住民の利便性向上のための環境整備・推進の取組事例として位置付け
 - ★冷暖房は現代の公共施設において、快適で安全に利用するための基本環境であり、利用者の希望に関わらず常識的に備えるべきもの
 - ★冷暖房費を含めた料金設定とすることで、申請受付、利用確認、料金加算などの業務を効率化⇒使用料を低減させて、利用者に還元することが可能
- ⇒冷暖房使用料は、施設使用料に含める。

3 昼間料金、夜間料金の区分について

- ・現状、昼間より、夜間のほうがコストがかかる前提で料金を区分
 - ★昼間のコスト、夜間のコストの差を検証
 - ★昼夜同一料金の検討（明確に夜間コストが増大する施設は除く）
 - ・シンプルな料金体系で利用者に分かりやすい
 - ・時間帯ごとの区分処理が不要となり、事務の軽減
 - ・昼しか活動できない層、夜しか活動できない層への公平性の担保
- ⇒昼間のコスト、夜間のコスト差を検証し、昼夜同一料金も検討する。

4 町内、町外の料金設定区分について

- ・町内・町外の区分のある施設、ない施設、無料の施設が存在
- ⇒原則として、町内町外の料金設定を区分する。
施設の設置目的、性質の違いに応じて、負担割合を検討する。



5 大人料金、子ども料金について

- ★施設の設置目的に応じて、大人料金、子ども料金を設定
 - ・子ども料金の設定の意義
 - 子どもの文化・スポーツ等への参加促進
 - 大人のほうが、施設利用による負荷が大きい（体育施設など）
 - 子どもは収入がなく、保護者負担への配慮
- ⇒大人料金、子ども料金の区分を設ける。